

# 「生命倫理特論」

遠隔配信



**1回目 平成27年11月 5日(木) 5-8限 13:20-16:35**

すずかけJ3棟4階405発信  
大岡山本館地階B04受信

**2回目 平成27年11月12日(木) 5-8限 13:20-16:35**

J2棟3階J233発信  
大岡山本館地階B04受信

**慶應義塾大学医学部 臨床遺伝学センター教授**

**増井 徹氏** 「ヒトゲノム情報の性質について」

現在ヒトゲノム情報の利用は、医学・生物学研究のみならず、医療での応用を進める段階にきた。このように人の体を離れて流通するゲノム情報の性質について、考えたい。研究や医療の場を離れた動きもある。そこからゲノム情報の性質を基盤にして、ゲノム情報を利用することの意味について解説し、いくつかの事例について検討し、討論を行いたい。

**3回目 平成27年12月10日(木)5-8限 13:20-16:35**

J2棟3階J233発信  
大岡山本館地階B04受信

**国立保健医療科学院健康危機管理研究部上席主任研究官**

**齋藤 智也氏** 「バイオセキュリティのランドスケープとデュアルユース性が懸念される研究」

人類の福祉、社会の安全の向上を目指して我々は科学・技術を扱っているはずであるが、それに内在する「悪用や誤用のおそれ」、すなわち「デュアルユース」の問題に対して、研究者はどのように向き合っていくべきだろうか。生物学的脅威に対する社会防衛を意味する「バイオセキュリティ」の諸問題の中での「デュアルユース」の問題について、2012年に勃発したインフルエンザH5N1ウイルスに関する研究論文の公表差し止め勧告に始まった一連の議論を題材に、現在に至る経過を辿りながらこの問題を一緒に考えてみたい。

●情報生命以外の学生も参加できます。●各回のみのお聴講者も参加可能です。

《担当教員》 徳永万喜洋(大学院生命理工学研究科生命情報専攻教授)

《問合せ先》 情報生命博士教育院 すずかけ台事務室 office@acls.titech.ac.jp